

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	
施 設 名	横浜能楽堂	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	15,553	(千円)
	公 演 事 業	10,532 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	5,021 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	特別公演「三老女」		申請取り下げ	目標値	1,020
				実績値	
2	沖縄本土復帰50年記念 企画公演「男の組踊 女の舞踊」	令和4年9月3日(土) 令和4年9月4日(日)	組踊「二童敵討」東江裕吉 女踊「諸屯」志田房子 女踊「稲まづん」宮城幸子 ほか	目標値	630
		会場：横浜能楽堂本舞台		実績値	706
3	第69回 横浜能	令和4年6月26日 (土)	狂言「船渡聲」(和泉流)野村又三郎 能「田村」(観世流)岡本房雄	目標値	340
		会場：横浜能楽堂本舞台		実績値	344
4	普及公演(解説動画ネット配信・多言語対応事業)	令和4年9月17日 (土)	お話：本田芳樹 狂言「伊文字」(大蔵流)茂山千五郎 能「融」(金春流)辻井八郎	目標値	315
		会場：横浜能楽堂本舞台		実績値	296
5	特別公演	令和4年11月6日 (日)	語「朝比奈」(大蔵流)山本則重 狂言「花争」(大蔵流)山本則光 能「昭君」(金剛流)金剛永謹	目標値	340
		会場：横浜能楽堂本舞台		実績値	274
6	普及公演「眠くならずに楽しめる能の名曲」	令和4年12月25日 (日)	トーク 中村雅之 狂言「茶子味梅」(和泉流)野村万蔵 能「楊貴妃」(喜多流)佐々木多門	目標値	340
		会場：横浜能楽堂本舞台		実績値	454
7	企画公演「能役者 鶴澤久」	令和5年2月5日(日)	「フレイヤハラ・イヴェント」鶴澤久 舞囃子「智恵子抄」鶴澤光 能「卒都婆小町」(観世流)鶴澤久	目標値	315
		会場：横浜能楽堂本舞台		実績値	486
8	普及公演「横浜狂言堂」		申請取り下げ	目標値	3,204
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	次世代育成プロジェクト ① 「横浜こども狂言堂」	令和4年7月31日 (日) 会場：横浜能楽堂 本舞台	狂言「柿山伏」(大蔵流) 山本泰太郎 狂言「神鳴」(大蔵流) 山本則孝 お話 山本東次郎	目標値	340
				実績値	405
2	横浜能楽堂次世代育成プロジェクト② 「こども狂言ワークショップ」	「こども狂言ワークショップ～入門編～」 令和4年8月1日 (月)・3日(水)・4日(木) 会場：横浜能楽堂本舞台、第二舞台	こども向け狂言ワークショップと発表会 講師：山本則俊ほか	目標値	20人(発表会来場者：100人)
		「こども狂言ワークショップ～卒業編～」 令和5年1月～3月 (全10回) 会場：横浜能楽堂本舞台、第二舞台		実績値	21人
		「横浜こども狂言会」 令和5年3月26日 (日) 会場：横浜能楽堂本舞台			
3	次世代育成プロジェクト ③ 「教育プラットフォーム」と「先生のための狂言講座」	「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」 令和4年11月～12月 (全5校) 会場：市内小学校	市内小学校へのアウトリーチ事業 教職員を対象とした狂言の講座。	目標値	教育プラットフォーム：横浜市内小学校5校

		「先生のための狂言講座」 令和4年7月31日 (日) 会場：横浜能楽堂本舞台		実績値	小学校5校・367人 狂言講座：87人
4	普及公演「バリアフリー能」	令和5年3月21日(火・祝) 会場：横浜能楽堂本舞台	お話 田崎甫 狂言「首引」(和泉流)野村萬斎 能「熊坂」(宝生流)水上優	目標値	170人
				実績値	441人
5	伝統文化一日体験オープンデー	令和4年8月6日(土) 横浜能楽堂本舞台他	仕舞鑑賞・見学会、獅子舞、小鼓体験、おりがみ体験、おはなし会、	目標値	420人
				実績値	725人
6	和のワークショップ	令和4年10月～令和5年2月 横浜能楽堂本舞台他	能楽師が案内する見学とワークショップ 和の文化体験 能楽入門講座 など	目標値	226人
				実績値	356人
7	横浜能楽堂施設見学会	令和4年4月～令和5年3月 横浜能楽堂本舞台他	毎月の施設見学会の開催および、仕舞鑑賞など含む特別見学会の開催	目標値	916人
				実績値	782人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>横浜能楽堂を所有する横浜市は「文化芸術創造都市」として4つの基本方針を挙げています。 【参考】 横浜市文化芸術創造都市施策の基本的な考え方 https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/org/bunko/sonota/kihontekinakangae.files/0001_20180927.pdf</p> <p>また、横浜市は横浜能楽堂に求める役割として6つの使命を挙げています。 【参考】 横浜市能楽堂（横浜能楽堂）指定管理者業務の基準 https://www.city.yokohama.lg.jp/business/kyoso/public-facility/kaku-katsuyou/bunka/sentei/hyoka/nougakusentei/nougaku.files/0057_20210218.pdf</p> <p>横浜能楽堂では、これらを念頭に「古典芸能で自国の伝統に誇りを持つ 現代に生きる力をはぐくむ」というミッションを掲げています。そのミッションを達成するため、市民に横浜能楽堂および古典芸能に親しんでもらうための活動、また市内に止まらず国内外に横浜能楽堂の魅力を発信していけるようなユニークな活動を行っています。</p> <p>令和4年度は、横浜市の有形文化財としての横浜能楽堂の魅力を活かし、地域コミュニティとも連携した「第69回 横浜能」「施設見学会」や、能楽等に携わる人材を育む「和のワークショップ」の開催、次世代育成を目的とした「こども狂言ワークショップ」「こども狂言堂」、芸術性が高く古典芸能の振興・発展に寄与する企画公演「男の組踊 女の舞踊」「能役者 鶴澤久」などを実施しました。特別公演「三老女」については、新型コロナウイルス感染症対策により令和3年度から延期して開催した事業のため、事故繰り越し制度を利用して開催しました。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>【文化的意義】</p> <p>横浜能楽堂では、これまでも横浜とゆかりの深い琉球芸能の公演を継続して開催してきました。企画公演「男の組踊 女の舞踊」では、人間国宝から若手中堅の実力者まで第一線で活躍する実演家を沖縄から招へいし、組踊、古典舞踊・雑踊・創作舞踊など、バリエーション豊かな作品を2日間にわたり上演。本土では上演機会が少ない琉球芸能の魅力を多くの人に紹介する貴重な機会となり、横浜での琉球文化の普及に寄与しています。</p> <p>【社会的意義】</p> <p>「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」や「先生のための狂言講座」など教育現場のニーズに応えた事業や「こども狂言堂」「こども狂言ワークショップ」など次世代を担う子どもたちに向けた事業を実施しました。また「バリアフリー能」では、市内の福祉団体と連携して、ソフト面・ハード面両面でのアクセシビリティの向上を毎年行っています。</p> <p>【経済的意義】</p> <p>企画公演「男の組踊 女の舞踊」や企画公演「能役者 鶴澤久」は、助成金により企画性の高い事業が実施可能となり、目標を超える入場料収入を得ることができました。また、関西や沖縄など遠方からの来場者も多く、地域経済の活性化に寄与しました。また能の上演には、多くの出演者を必要とするため、多くの経費を要しますが、助成により、能楽にあまりふれたことのない観客層も来場できるような安価な入場料で、公演鑑賞の機会を提供することができています</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

■公演事業

【目標1】 芸術性の高い事業、企画性の高い事業実施による古典芸能の振興と発展に寄与

指標 事業番号5「特別公演」の券売率70%以上 ⇒結果 券売率63.0%で未達成

【目標2】 古典芸能の観客層拡大

指標 広報用動画再生回数を事業番号4「普及公演」は合計600回以上。

Twitterのインプレッション数を事業番号5「眠くならずに楽しめる能の名曲」は6,000回以上

⇒結果 「普及公演」動画再生回数1167回、「眠くならずに楽しめる能の名曲」8283回で達成

【目標3】 古典芸能の魅力を、横浜の地域の特性を生かした広報の実施

指標 事業番号2「第69回 横浜能」、事業番号2「男の組踊 女の舞踊」について地域コミュニティを利用した広報活動を2回以上実施

⇒結果 「第69回 横浜能」1回、「男の組踊 女の舞踊」で3回でおおむね達成

★「特別公演」は広報のタイミングがコロナウイルスの感染拡大期と重なったことから、売れ行きが伸び悩み、目標達成できませんでしたが、「男の組踊 女の舞踊」「能役者 鶴澤久」といった企画性の高い事業では目標の券売率を上回り、多くの方々に古典芸能の魅力を伝えました。「普及公演」では、上演作品の見どころなどを能楽堂スタッフや出演者が語る動画をYouTubeで配信し、目標を上回る視聴者を獲得。内容についても好意的な意見が寄せられました。「男の組踊 女の舞踊」では、地元の沖縄コミュニティなどと連携して広報を行い、集客に繋がりました。

■普及啓発事業

【目標1】 アクセシビリティの拡大と社会包摂への取組

指標 事業番号4「バリアフリー能」に新しいサポート（サービス）を2件以上導入 ⇒結果 3件導入し達成

【目標2】 次世代の育成

指標 事業番号1「こども狂言堂」の来場率を80%以上 ⇒結果 来場率91.8%で達成

【目標3】 観客の裾野の拡大、地域との連携

指標 参加者のうち初来館者が占める割合を事業番号6「和のワークショップ」は30%以上、事業番号7「施設見学会」は20%以上

⇒結果 「和のワークショップ」39.6%、「施設見学会」24.7%で達成

「バリアフリー能」では桜木町駅からのバス送迎を新たにサポートに加え、アクセシビリティの向上を図りました。「こども狂言堂」では、来場者が目標を超えただけでなく、170人以上の子どもが参加。親子で狂言を楽しむ姿が見られ、狂言の魅力を次世代に伝えることが出来ました。「和のワークショップ」では、狂言や太鼓のワークショップや、和の小物づくりなど、初心者でも参加しやすい多彩なプログラムをそろえたことが功を奏し、多くの初来館者を獲得することが出来ました。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

今年度の事業については、普及啓発事業・事業番号 7「横浜能楽堂施設見学会」のメニューの一つ「特別見学会（横浜能楽堂単独事業）」を「特別見学会（近隣施設連携事業）」と併せ、内容を充実させ開催する形となりましたが、その他の事業については当初の計画通りに開催することが出来ました。

「普及公演」「特別公演」といった事業では、広報期間が新型コロナウイルスの感染拡大期と重なり、思うように公演の魅力をアピールすることが出来ず、来場者の目標を達成することが出来ませんでした。年度後半に開催した「眠くならず楽しめる能の名曲」「能役者 鶴澤久」「バリアフリー能」は、企画性の高さや充実した公演内容が話題となり、チケットが完売。ポストコロナに向けて来館者が回復しつつある傾向が見られました。

また、「男の組踊 女の舞踊」では予定通り開催は出来ましたが、台風の到来と開催時期が重なり、出演者に急遽前倒して横浜入りしていただくことになるなどスケジュールに変更が生じたほか、2日間に分けて開催したことで、来場者が1日に偏ってしまう傾向がみられたなど、開催時期や期間などについて、今後の検討課題もみ分かりました。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業・事業番号 2「男の組踊 女の舞踊」では、沖縄から出演者約 30 名を招へいたこともあり、事業費が大きくなりましたが、令和 3 年に新たに重要無形文化財括弧認定保持者に認定された宮城幸子・志田房子をはじめ、第一線で活躍する実演家が揃い、2日間にわたって組踊、琉球舞踊を上演。第 2 日には皇嗣殿下、皇嗣妃殿下のお成りがあり、公演の様子が多くのメディアで報道され、より多くの方に本事業を知っていただくことが出来ました。なお、沖縄からの出演者の航空券代・宿泊費については、旅行会社のツアーを組むことにより大幅に圧縮し、支出が予算より 100 万円以上の減額となりました。その他の事業については概ね予定通りの予算執行ができました。

収入については、「バリアフリー能」が当初はコロナ禍の影響を考慮して、販売座席数を客席収容人数の 50%で予定していましたが、障がい者団体にヒアリングを行う中で、今年度は販売制限の必要がないことが確認できたため、全ての席を販売し、収入が予算から約 175%伸びました。その他、「眠くならず楽しめる能の名曲」「能役者 鶴澤久」では、想定を上回る反響がありチケットが完売したため、収入が予算比 120%を超えました。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【劇場・音楽堂等の資源】

◆芸術監督 中村雅之

横浜能楽堂では、平成 31 年に中村雅之が芸術監督に就任。幅広い知識や海外の芸術団体とのネットワークを活かし、横浜能楽堂での各公演のプロデュース、講演活動の他、吉祥寺薪能など外部での解説、明治大学兼任講師、にっぽん文楽プロデューサーなどを勤め、「教養としての能楽史」（ちくま新書刊）、和菓子の芸心（東京新聞にて月 1 回連載）などの執筆活動を行っています。

令和 4 年度は、公演事業・事業番号 2 「男の組踊 女の舞踊」のプロデュースを行いました。本公演は沖縄の本土復帰 50 周年を記念して、琉球芸能の戦後史と共に歩んで来た大御所から、これからを担う中堅・若手まで総出演。組踊と舞踊を 2 日間にわたり上演しました。2 日間で 700 名を超える観客が来場し、参加者からは「関東で琉球芸能の企画は多くはないので組踊も舞踊もという企画をしていただけるのはありがたい。創作舞踊から古典までさまざまな舞踊が美しく見応えがありました」「地方から鑑賞にきました。東京、大阪そしてここ横浜以外では、めったに琉球芸能の公演がない。そんななか継続的に公演を企画されてきた貴能楽堂に敬意を表します」「初めての組踊を見たが感動した。二つの演目共、母親役がせつなくて胸をうった」など意見が聞かれ、アンケート調査での満足度は 4.65 点（5 点満点）と非常に高いものとなりました。また、普及啓発事業・事業番号 6 「和のワークショップ」のメニューの一つ「芸術監督による能楽入門講座」では、講師を務め、参加者からは「とても面白く、楽しく、能のストーリーや人物像の解説を伺った。能に対する興味、関心が深まった」などの意見が聞かれました。

◆事業担当者

芸術監督のもと、3 名の事業担当が公演の制作を行っており、内 2 名は専門的な知識を持ったプロデューサーとして、公演企画立案にも携わっています。令和 4 年度は、公演事業・事業番号 7 「企画公演『能役者 鶴澤久』」のプロデュースを行いました。本公演では、性別の枠を超えて活躍を続ける女性能楽師・鶴澤久にスポットを当て、能「卒都婆小町」、尺八演奏家・藤原道山らと共演した一柳慧作曲の現代音楽「プラティヤハラ・イヴェント」などを上演しました。アンケート調査での満足度は 4.82 点（5 点満点）と非常に高く、「番組構成がよく練られている事が嬉しかった」「多彩な演目から能の真髄を堪能できた」などの意見がきかれました。また、公演事業・事業番号 4 「普及公演」では、上演曲にまつわるトークや出演者へのインタビューを行った動画 4 本を作成し、YouTube で公開し、来場者のみならず、能・狂言に興味を持っている方へ、情報を発信しました。

◆横浜能楽堂本舞台

横浜能楽堂の本舞台は明治 8 年に東京上根岸の前田齊泰邸に建てられた、現存する関東最古の能舞台で、横浜市の有形文化財にも指定されています。その魅力を最大限に活用すべく、毎月施設見学会をはじめ、「能楽師が案内する横浜能楽堂見学とワークショップ」や『『着物をほどく』と横浜能楽堂舞台見学』といった、これまで能楽堂に足を運んだことが無い層にも興味を持ってもらえるような和のワークショップと、舞台見学を合わせた事業を開催し、市民の皆さまに横浜能楽堂の舞台の歴史や能舞台の魅力を伝える活動を行いました。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

◆企画公演「男の組踊 女の舞踊」

本土復帰 50 周年を記念して、人間国宝から若手中堅の実力者まで第一線で活躍する実演家を沖縄から招へいし、組踊、古典舞踊・雑踊・創作舞踊など、バリエーション豊かな作品を 2 日間にわたり上演しました。横浜には、鶴見区を中心に約 3 万人もの沖縄にルーツを持つ人たちが住んでおり、琉球芸能にも市民から高い関心が寄せられています。本公演では、市内の沖縄出身者コミュニティや琉球芸能の愛好者団体などとも連携をして広報を行い、目標を超える参加者が来場。トップレベルの舞踊家・演奏家が出演する舞台を堪能していただく機会を提供することが出来ました

◆第 69 回 横浜能

「横浜能」は、横浜市内の能楽実演・愛好者団体である横浜能楽連盟と連携して開催してきた催しで、昭和 28 年に第 1 回が開催されて以来、地域に根差した能の公演を目指し、毎年、横浜ゆかりの能楽師の出演や、横浜ゆかりの演目を上演してきました。69 回目を迎えた本年は、横浜市内在住の岡本房雄による能「田村」を上演。横浜能楽連盟との広報協力、地域の広報媒体、地元映画館など、地域コミュニティを利用した広報により、アンケート結果では、来場者の約 77%が横浜市内からの来訪者という結果となり、市民へ能楽普及を促す機会にもなりました。

◆先生のための狂言講座

6 年生国語の教科書（光村図書）に、狂言「柿山伏」が掲載されていることから、狂言の実演鑑賞、講座等のニーズが教育現場において高まっています。そこで市内の教員、教育関係者を対象とし、狂言「柿山伏」の実演鑑賞の後、教科書掲載の随筆「柿山伏について」の著者でもある人間国宝・山本東次郎が解説を行う、授業で子どもたちに狂言の面白さ、伝統文化の奥深さを伝えるためのヒントになるような講座を開催しました。

予定参加者数 50 名のところ、100 名を超える申し込みがあり、教員たちの本講座へのニーズの高さがうかがえました。参加者からは「狂言の奥深さに触れ感動しました。やさしさ、あたたかさ、人としての努力の尊さ、美しさのようなものを東次郎先生のお話から伺うことができました」など好評な声が聞かれました。講座終了後には施設見学も開催し、教員たちに狂言の魅力や 150 年近い歴史を持つ能舞台が身近にあることを伝えることができました。

◆横浜市教育プラットフォーム

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局と共催し、市立小学校を対象にアウトリーチプログラムを実施しました。学校と綿密に連絡を取り合いながらプログラムを調整し、今年度は市内の 5 つの小学校で、「狂言」「雅楽」「和太鼓」と各学校のニーズに合わせたプログラムを提供することが出来ました。狂言のプログラムでは、解説→狂言の「型」を考えるクイズ→鑑賞→実技体験と、段階を踏んで理解できるように内容を工夫。「型」を考える過程を経ることで、狂言には想像力が重要となることを知り、鑑賞の際には、真剣に舞台を見て、面白い所ではどっと笑いが起きる光景が見られました。実技体験でも、楽しみながらも積極的に取り組む姿勢が見られ、多くの子どもたちに狂言の魅力伝えることができました。

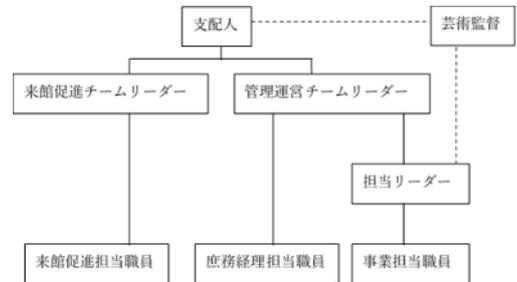
(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【人材面】

平成 31 年度より、全国の能楽堂でも初めてとなる芸術監督のポストを新設。公演の芸術面・企画面での統括を専門的に行うことでより質の高い公演実施が可能となっています。また来館促進チームでは、来館促進を目的とした事業に力を入れ、施設見学会やワークショップ等、公演以外の能楽堂の魅力をアピールする事業を行いました。公演制作は、令和 4 年度はプロデューサー 2 名を含む 3 名が担当。企画立案や制作を行うことで事業全体を円滑に実施しています。また毎月行う、事業担当者会議で事業の進捗状況や、終了事業の課題・改善点を共有し、事業の継続と発展に繋げています。プロデューサーは横浜市芸術文化振興財団の実施する専門人材研修（令和 4 年度は 3 回実施）に参加しスキルアップを図るほか、MBO (Management By Object) 制度を用いて担当事業の目標を定め、年度末に振り返りを行うことで、今後の事業運営に活かしていくシステムが構築されています。また当財団においても人事異動はありますが、専門性を持つプロデューサーは平均 10 年、他の担当職員は 5 年横浜能楽堂で勤務しており、安定した運営が可能となっています。



横浜能楽堂組織図

【財務面】

横浜能楽堂の主な収益基盤は、「助成金収入」の他、「横浜市指定管理料収入」「自主事業収入（入場料収入等）」「施設利用料金収入」の 4 項目で全体の約 95%を構成します。令和元年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響で、自主事業収入、および施設利用料金収入は落ち込みました。そのような状況下でも、感染症対策を行いながら公演事業・来館促進事業を行うことで、財源の確保に努め、令和 4 年度の自主事業収入・施設利用料金収入はコロナ禍以前に近い水準まで戻りつつあります。

【ネットワーク】

横浜能楽堂の建つ紅葉ヶ丘近辺は、神奈川県立音楽堂、神奈川県立図書館、神奈川県立青少年センター、横浜市民ギャラリーと 5 つの公共文化施設が集まる地域です。互いの施設の管理運営についての情報交換を平成 30 年度より始め、令和 3 年度は「紅葉ヶ丘まいらん」として 5 館連携イベントを開催してきました。令和 4 年度も毎月、5 館の担当者が集まって会議を行い、令和 5 年 3 月 4 日（土）には、横浜・紅葉ヶ丘まいらん連携事業として、同日に 5 館で様々な催しを開催。横浜能楽堂では、仕舞鑑賞や舞台裏見学を実施したほか、神奈川県立音楽堂主催の「音楽堂のピクニック」に協力しました。そのほか、横浜・紅葉ヶ丘まいらん協働事業として 8 月 6 日に開催した「伝統文化一日体験オープンデー」では他施設と連携してプログラムを実施。一体的な広報や回遊性を高め、各施設の認知度を向上させる事業を実施するほか、危機管理の情報共有等で連携を図っています。



神奈川県立音楽堂で開催された
「音楽堂のピクニック」より



「伝統文化一日体験オープンデー」